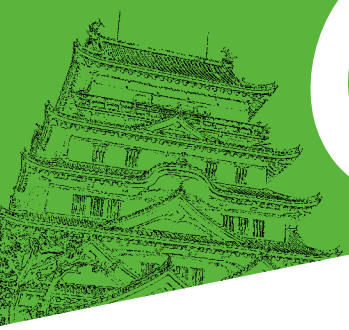
Rotary
District 2710

2019-2020 ROTARY INTERNATIONAL District 2710



GOVERNOR's MONTHLY LETTER

vol.09
2020.3

2019-20年度 国際ロータリー
第2710地区 ガバナー
畫田 眞三

脇ガバナーエレクトご夫妻がサンディエゴでの国際協議会を1月に終了され、PETS（Presidents-Elect Training Seminar）の開催に向けて準備が進み、また各クラブにおかれましても来年度の準備の最中だと推察します。

各クラブ会長エレクトを始めとする役員予定者の皆様にはご尽力をお願いいたします。

現在はIM（インターシティミーティング）のシーズンです。すべてのグループでガバナー補佐を始めとする主管クラブで開催いただきます。海外では開催している方が少なく、国内でも開催していないグループ（分区と呼ぶ地区もあります）がある実態を知ると、これまで当たり前と思っていたことが当たり前ではない、関係者の努力の成果であることを改めて認識します。

日韓姉妹地区交流の事業として長年続けられているインターアクト学生の交換ですが、今回は韓国からの学生派遣が中止になりました。通常、20～30名の高校生を受け入れていましたが今回は5名と教師1名、ロータリアン1名との連絡を受けていましたところ、1月16日に中止の連絡があり、急遽2月1日予定されていた歓迎式を中止しました。関係者の落胆を想像します。甚だ残念ですが昨今の日韓関係に影響されたのでしょうか。

昨年の地区大会で姉妹地区の契約更新をするに当たり、「更新すべきか否か」についてパストガバナーからのご意見を聞きましたが、賛成・反対両論ありました。しかしガバナー会での「こんなときに関係改善に努力するのがロータリー」との話と、仙台で開催された日韓親善会議を考慮し、更新と判断しました。その結果、調印式には34名もの韓国のロータリアンに出席していただきました。今となれば彼らの判断は韓国世論におもねることのない立派なものだったと思います。

IAの日韓姉妹地区交流会は、以降も関係改善が進まず、今回の判断になったものです。残念ですが、以前言われていた「未来志向の関係」に進みたいものです。

今月は「水と衛生」月間です。皆さんご承知のように、多くの国では水道水は飲用にはできません。小生もこれまで世界50カ国程度訪問した経験から、水道水を飲用にできる国に住むことの豊かさやありがたさを日頃から感じています。

タイの洪水の際に急遽出張したことがありました。ホテルの水も臭いましたが、帰りの飛行機の水も同じ匂いでした。飛行機の水もその土地のものが使われるので当然です。

また子供の頃は渇水期の断水は止むを得ないものでした。香川県のように大きな河川がない県は断水が多く、灌漑用のため池も必要でした。しかし今はダムや送水管の充実により（人口減少も効いているか?）、西日本豪雨や昨年の台風19号並みの自然災害以外には断水という言葉を日常的に聞く機会は激減しました。

何といっても日本では水道水で洗えば、泡立ちも良く、凡そきれいになります。ありがたいことです。

ここで申し上げたいことはこのありがたいインフラ「水道」も人工的なものであり、維持管理が必要であり、コストがかかると言うことです。多くの自治体でこれまで通り維持することが困難になっています。

地区内でも路線バス・水道・電気・電波といったインフラが崩壊する手前で踏ん張っている地域の方々も多くいることを知りました。地域の代表選手であるロータリアンに期待しています。

ロータリーの未来を語り、礎を築こう

【contents】

ガバナーメッセージ ・・・・・・・・・・・ 1
水と衛生月間によせて ・・・・・・・・・・ 2
中村 哲さんのこと ・・・・・・・・・・・ 3
国際協議会報告 ・・・・・・・・・・・・ 4
第12期RLI-2710パートI報告書 ・・・・・・ 5
国際ロータリー 第2710地区 2022-23年度
ガバナー予定者決定のお知らせ ・・・・・・ 5
会員増減 出席率 ・・・・・・・・・・・・ 6
特別コラム ・・・・・・・・・・・・・・ 6
新会員紹介 物故者 ・・・・・・・・・・・ 7
地区大会広告 ・・・・・・・・・・・・・ 8

水と衛生月間によせて

2019-20年度 国際ロータリー第2710地区 パストガバナー 吉原 久司

きれいな水を利用できることは基本的な人権です。しかし世界には、適切な衛生設備が利用できない人が25億人と、安全な飲み水が得られない人が7億4,800万人おり、さらに毎日1,400人の子供が、劣悪な衛生環境と不衛生な水を原因とする病気で命を落としています。また未来を担うはずの子供たちは、水汲みなどの労働によって学校に通えず、つらい境遇を強いられています。

国連は2015年、環境と気候変動に対応しながら貧困問題と福祉問題に取り組むために、「持続可能な開発目標」(SDGs)を設定しました。目標の1つは水と衛生に関する項目で、「すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する」ことを目標としておりSDGs2030アジェンダを構成する17のグローバル目標の1つとなっています。

ロータリーでも、井戸や雨水貯水システムの設置、水設備管理の研修、疾病予防のための水・設備の提供、衛生設備の提供など水関連の多くの活動が実施されています。わが地区でもロータリー財団グローバル補助金・地区補助金さらにはクラブの独自事業として現在まで多くのクラブが参加してこられたのは皆様ご承知のとおりです。しかし最大の課題は、このような設備が整えられた後にあります。それは、はじめにプロジェクトが成功してもゆくゆくは失敗に終わるケースが頻繁にあるからです。

コンサルティング会社「Improve International」社が集めたデータによると、サハラ以南のアフリカだけでも、機能不全に陥った水道システムに関連する費用の累計額は、様々な団体を合わせて12億～15億ドルに上ると推測されています。アフリカ、南米、南アジアの一部では、まるで持続不可能となった奉仕プロジェクトの証とでもいうように、錆びた給水ポンプや老朽化した衛生設備があちこちに見られます。こういった現状を踏まえロータリーがここ数年、活動の焦点を教育、協力、持続可能性に転換したのもこれが1つの理由となっているように思います。

ロータリー財団は長年の活動を通じて、長期的な変化をもたらすには地域社会のかかわりが極めて重要であることを学びました。現在、他国で実施する一部のプロジェクトでは、補助金を申請するクラブに対し、プロジェクトの計画に地元住民が関わったことを証明することを義務付けています。

また、教育指導も大切で衛生施設の設置だけでは、WASHプロジェクトの長期的な成功は望めません。健康的な習慣を定着させることも重要です。適切な衛生環境によって、コレラ、赤痢、肺炎などの病気を50%近く減らすことが出来ます。石鹸を使った手洗いだけで命を救うことも出来るのです。

私達の地区も以前に行った事業のその後のモニタリングを行い相手のクラブと共同し持続可能な投資、教育などを考えていかなければならないと思いますが、どうでしょうか？

中村 哲さんのこと

国際ロータリー第2710地区 2019-20年度 G9ガバナー補佐 三宅 宏（尾道東RC）

少し大仰なタイトルかもしれないが、「水と衛生月間」の原稿依頼を受けた時、最初に思い浮かんだものが「中村哲」という一人の医師の名前であった。残念ながら、お会いしたこともなく、彼の活動の本拠地である「アフガニスタン」を訪れたこともない。

数年前、彼の活動をテーマにした二つのテレビ番組に出会う。一つが「武器ではなく、命の水を」というドキュメント。カメラは、族長たちに囲まれて「診療所」設置を説得する中村氏を映し出す。「あなた方の、文化や宗教を踏みにじろうとするものではありません。」中村氏が必死に訴える。族長の一人が立ち上がり、「診療所が出来てしまえば、どうせ、あなたがたはさっさと居なくなってしまう。そんな者のために、何故、我慢しながら協力せねばならないんだ。」と叫ぶ。中村氏はゆっくり立ち上がり「私は、命の続く限りこの国のこの場所で人々を診る。」と告げる。

場面は切り替わり、未曽有の「旱魃」に襲われたアフガニスタンの大地を映し出す。小さな子供を抱えた親たちが、必死の眼差しで中村氏の診察を受ける我が子を見ている。高熱に魘される幼児、背中一面の爛れ。「『接触性皮膚炎』。きれいな水さえあれば、洗い流すだけでこんな深刻な症状にならぬのに・・・」

中村氏がゆっくりとインタビューに答える。「100の診療所、100人の医師よりも、1本の井戸、一つの用水路が人々の命を救うのです。」この思いは、ロータリーの「ポリオ撲滅運動」が「ポリオプラス」に移行する過程に酷似している。

その後、上総掘りを利用した井戸の設置、中村氏が医師から土木技師として数十キロにわたる用水路建設へとつながり、そのプロセスが克明に映し出されていく。中村氏自ら重機の操縦をし、蛇篭、山田堰といった先人の知恵と技術を駆使し、アフガニスタンの人々の懸命な働きと共に完成する。失敗の繰り返し、春になって川の流量が増すまでに完成させねばならぬ焦燥、米軍ヘリによる間違った機銃掃射。多くの障壁を乗り越え、25㎞にわたる用水路が完成し、砂漠であった土地が鮮やかな緑の穀倉地帯になり、10万人もの人々が生活できる土地へと変貌を遂げた。

いくつか、中村氏の言葉を紹介する。

「鍬も握っていない外国人が
農業支援を行うことはできません。」

「『国際化』の致命的な欠陥は、
下から上を見る視点の欠落である」

「誰もがそこへ行かぬから、我々がゆく。
誰もしないから、我々がする。」

私は、東京で建設会社に勤務していたころ、ガイアナ、ウガンダ、スリランカ、ソロモン、セントヴィンセント＆グレナディーンといった国々に派遣され、工事を行った。全て、コモン・ウェルスであり、道路網と水道網は完備されていた。勿論、水道水はそのまま飲めるわけではなく、現地の方に招待されて馳走になり、下痢と高熱を発し、結果「ココナッツウォーター」で、生き延びた経験もある。世界で水道水が飲める国が15か国あるとのことだが、アメリカ、フランスは入っていない。

最後に中村さんの言葉を

「必要なのはお喋りではなく、実弾である。
現地の我々は、飲料水確保に全精力をつぎ込む。
水は命である。」

国際協議会報告

国際ロータリー第2710地区 ガバナーエレクト 脇 正典

2020年になり、ガバナーエレクトの役の第一歩が国際協議会への出席であった。この会を修了しないとガバナーに認定されないという重要な会である。1月19日夕方に成田空港を出発し、時差の関係で19日の午前にカリフォルニア州のサンディエゴ空港に到着した。当日はオリエンテーションでホテル内の案内があった。何しろ大きいホテルで2,000人の会議室と1,000人の会議室が2つ。小会議室が30くらいあり、2,000人が宿泊できる規模で迷子になりそうであった。

写真①

20日から会議が始まり、第1日目のハイライトはホルガー・クナークRI会長エレクト挨拶とテーマの発表であった(写真①)。

Rotary Opens Opportunities
ロータリーは機会の扉を開く

ロータリーの多様性を尊重し、奉仕・会員等様々なチャンスの機会を提供し扉を開いて欲しいという、ここ数年のRIの方向に沿ったものであった。

25日までの6日間、同じパターンで会議があった。

9：00～10：15　本会議
10：30～12：00　分科会
12：00～14：00　昼食・休憩
14：00～15：15　本会議
15：30～17：00　分科会
18：00～　夕食 or 晩餐・舞踏会 or 各国の夕べ(出し物) or 祝賀会

本会議で提議されたものを分科会で話し合うという形であった。分科会は日本のガバナーエレクト34人が毎回異なるメンバーで2会場に分かれて討議した。1人2～3回は手を上げて発言する必要があり、居眠りできなかった。本会議は同時通訳があったが、分科会も4～5国の人が出席した会が1回あった。これには同時通訳が付いた。

昨年まであった半日のフリータイムはなく、まさに会議詰めでホテルの外へ出ることができなかった。もう少し余裕があればと思った。協議内容は以下の通りであった。

1. **ビジョンを掲げて導く**　ロータリー賞に取り組む
2. **若い世代によるロータリーへの参加**　ローターアクターに期待する革新的なクラブ(衛星クラブ)を創る
3. **世界でよいことをしよう**　ロータリー財団を活用する
4. **財団のインパクトを高める**　ポリオを根絶する
5. **ガバナーの役割と財務的責務**
6. **ロータリーの成長**　会員基盤を充実拡大する
7. **ロータリーの推進**　face to faceにより友情を育み、ロータリーのブランド標章を大切にする
8. **変化を導く**　柔軟性を取り入れ、変革する
9. **行動にむけた計画**

次年度私のガバナー方針は「不易流行」である。変えてはいけないものを堅持し、今回勉強した良いところを取り入れ、時代に即して柔軟に対処していきたい。

勿論、国際協議会での研修は座学だけでなく、各国の出し物もあり国際色豊かであった。日本チームは東京オリンピックに因み、全員2020年オリンピック公認浴衣を着てオリンピック音頭を踊った。かなり練習した成果もあり、大好評であった。

写真②

クナーク会長の招待昼食会で会長夫妻との写真撮影があった(写真②)。この席で会長から4つの依頼事項(重点項目)が述べられた。

写真③

1. **革新的なクラブの創設**　衛星クラブ・ローターアクトクラブ
2. **各クラブの5年後をイメージした戦略委員会の開催**
3. **新会員を注意して選ぶこと**
4. **ポリオ根絶のため寄付の継続(写真③)**

皆様方のご支援・ご協力をお願いいたします。

第12期RLI-2710パートI報告書

2018-21年度RLI日本支部地区代表委員 兼 地区代表ファシリテーター
パストガバナー 沖田 哲義

開催日時　令和２年１月26日（日）
　　AM10：00 ～ PM5：00
開催場所　広島YMCA国際文化センター
出 席 者　登録者＝75名
　　当日出席者＝70名
　　途中退席者＝１名
　　関係者＝24名
内　　容　分科会①「ロータリーにおけるリーダーシップ」
　　分科会②「私のロータリー世界」
　　分科会③「会員の参加を促す」
　　分科会④「R財団Ⅰ 私たちの財団」
　　分科会⑤「倫理と職業奉仕」
　　分科会⑥「奉仕プロジェクトを創造する」

感　　想

全体的には、本当にすばらしかったと思います。「RLIのレベルが上がった」とつくづく思いました。しかし、少し残念なのは、殆どがディスカッションリーダーと受講者との間の対話に終始しており、受講者同士の討論が見受けられなかった点です。これは、いつものとおりですが、やはり少し残念な気がします。これを何とか改革をしなければなりません。しかし、大変難しい問題ですので、なかなか上手くいきません。これを解決するためには、時間がかかっても、組織的に専門のディスカッションリーダーを育てるしかないと思います。必要な人数は、少なくとも６人です。これは６つのセクション（分科会）分の人数です。しかし、私の代では無理でしょうから、後任の地区代表委員及びファシリテーターにお任せするしかないと思われます。なお、個別の問題は、紙面の都合上割愛させて頂きます。

国際ロータリー第2710地区 2022-23年度 ガバナー予定者決定のお知らせ

徳山ロータリークラブ
石川 良興（いしかわ よしおき）

2020年1月23日、当地区ガバナー指名委員会は、国際ロータリー細則第12条12.030.4により2022-23年度ガバナー候補者として石川良興氏（徳山RC）を推薦し、その旨細則第12条12.030.5により地区内会員に公表致しました。

その後、2週間の期限までに対抗候補者の推薦がございませんでしたので、細則第12条12.030.10により石川良興氏を国際ロータリー第2710地区2022-23年度ガバナー予定者として決定致しましたことをご通知申し上げます。

2022-23年度ガバナー候補者 略歴

《所属クラブ》　徳山ロータリークラブ
《生 年 月 日》　1942年12月2日
《職 業 分 類》　内科医
《学　　歴》　1967年　山口県立医科大学卒業
《職　　歴》
1968年4月　山口大学医学部第２内科入局
1973年12月～2010年3月　医療法人イオキ会理事長兼徳山内科クリニック院長
2010年4月～現在　医療法人イオキ会徳山クリニック名誉院長
2012年8月～現在　社会福祉法人栗屋福祉会理事長
2014年2月～現在　社会福祉法人栗屋福祉会くりや苑施設長
《主　公　職》
1995年4月～1999年　徳山医師会副会長
2018年7月～現在　周南市高齢者保健福祉推進会議委員
《ロータリー歴》
2010年7月2日　徳山ロータリークラブ入会
2016-17年度　徳山ロータリークラブ会長
　　大口寄付者（Level 4）
　　ベネファクター
　　米山功労者第50回メジャードナー
《賞　　罰》　1996年9月　紺綬褒章

国際ロータリー第2710地区　2019-20年度会員増減・出席率(2020年1月度)

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数 年度初 7/1	当月 末日	当月 内女性	本年度 入会	本年度 退会
1	長門	88.69	24	24	4	0	0
	下関	65.93	44	45	1	3	2
	下関中央	78.75	36	39	8	3	0
	下関東	73.62	61	60	3	0	1
	下関北	89.62	44	44	0	1	1
	下関西	85.03	33	35	0	4	2
計		80.27	242	247	16	11	6
2	萩	93.04	48	51	1	4	1
	萩東	93.00	26	25	1	0	1
	美祢	80.58	24	24	1	1	1
	小野田	83.59	37	40	2	3	0
	宇部	92.26	44	45	2	2	1
	宇部東	65.14	13	13	2	0	0
	宇部西	88.62	50	50	3	1	1
計		85.18	242	248	12	11	5
3	防府	92.45	59	59	1	1	1
	防府北	97.02	25	25	3	1	1
	防府南	73.40	38	42	6	4	0
	山口	86.53	50	51	4	3	2
	山口県央	87.51	31	31	1	0	0
	山口南	90.56	45	45	5	0	0
計		87.91	248	253	20	9	4
4	光	88.56	52	49	0	0	3
	周南西	90.45	54	55	6	5	4
	徳山	98.33	43	46	1	5	2
	徳山セントラル	95.66	26	25	1	2	3
	徳山東	100.00	50	48	0	4	6
計		94.60	225	223	8	16	18
5	岩国	85.23	63	64	0	3	2
	岩国中央	88.29	37	37	3	1	1
	岩国西	89.43	57	58	4	3	2
	柳井	100.00	30	29	3	0	1
	柳井西	99.66	27	26	3	0	1
計		92.52	214	214	13	7	7
6	広島	99.22	114	125	1	15	4
	広島安芸	96.44	43	45	3	2	0
	広島安佐	87.10	21	21	1	2	2
	広島東	99.43	114	118	8	5	1
	広島北	96.67	99	102	0	5	2
	広島陵北	98.28	54	56	3	2	0
	大竹	85.18	32	32	0	0	0
計		94.62	477	499	16	31	9
7	広島中央	99.72	74	76	7	4	2
	広島廿日市	92.53	33	31	3	1	3
	広島城南	100.00	44	43	3	1	2
	広島南	100.00	89	93	0	5	1
	広島東南	100.00	100	102	14	7	5
	広島西南	99.64	67	68	3	2	1
	広島西	99.75	85	87	3	4	2
計		98.81	492	500	33	24	16
8	江田島	89.62	18	18	0	0	0
	東広島	99.11	31	28	3	1	4
	東広島21	78.33	17	19	4	2	0
	呉	90.66	72	73	1	4	3
	呉東	83.09	35	36	1	2	1
	呉南	90.16	61	60	2	3	4
	西条	98.98	36	34	2	2	4
計		89.99	270	268	13	14	16
9	広島空港	82.49	29	29	3	0	0
	因島	91.65	19	18	0	0	1
	三原	90.43	59	58	0	1	2
	尾道	73.79	85	83	2	3	5
	尾道東	87.12	56	56	7	0	0
	瀬戸田	72.86	5	4	0	0	1
	竹原	89.89	25	20	3	0	5
計		84.03	278	268	15	4	14
10	府中	94.82	27	26	2	1	2
	福山	95.24	84	81	0	4	7
	福山東	80.95	48	49	3	2	1
	福山丸之内	96.85	29	29	1	1	1
	鞆の浦	87.42	22	23	0	1	0
	福山REC2710※	93.05	19	19	3	1	1
計		91.39	229	227	9	10	12
11	福山赤坂	78.20	52	53	6	3	2
	福山北	97.38	40	41	0	1	0
	福山南	84.57	51	59	3	8	0
	福山西	97.02	38	36	2	0	2
	松永	90.79	53	52	2	0	1
計		89.59	234	241	13	12	5
12	吉舎	92.67	15	16	0	1	0
	三次	81.42	37	37	0	1	1
	三次中央	95.31	39	38	5	2	3
	庄原	91.08	34	34	4	0	0
	東城	85.20	18	18	1	0	0
計		89.14	143	143	10	4	4
第2710地区計		89.59	3294	3331	178	153	116

※正式名称「福山ロータリーEクラブ2710」

。°○ 特別コラム ○°。

ロータリーライフで良き友人を

2019-20年度 国際ロータリー第2710地区 三原ロータリークラブ会長 田坂 潤

三原の街は、1567（永禄10）年の毛利元就3男小早川隆景の三原城築城から始まり、1600（慶長5）年に福島正則子正之が城主となり、1619（元和5）年の浅野忠吉の城主以来、幕末まで248年間、浅野氏12代にわたって三原を統治しました。

2017（平成29）年には、小早川隆景三原城築城より450年となり、「瀬戸内三原築城450年」と題してイベントが行われ、現在に至っています。

三原RCには、歴史を通じての「つながり」と友情を通じての「つながり」があります。

西日本豪雨災害（平成30年7月）では、三原市も甚大な被害を受けました。その時に、和歌山県新宮RCと栃木県真岡RCより、お見舞いと多額の支援金をいただきました。

新宮RCとは、三原城主として新宮より浅野忠吉が入城以来の「つながり」です。真岡RCとは、三原RC野球同好会と甲子園で対戦して以来の親交の「つながり」です。

また国際ロータリー第1660地区、フランスのアルジャントイユ・コルメイユ・オン・パリジRCのシャラン・フランソワさんより、お見舞いのメールをいただきました。2011年3月の東日本大震災義援金を持参されたり、2016年には国際ロータリー第1980地区スイス ジッサッハRCとの合同で日本旅行の際、三原にて交流例会を開催するほどの親交の「つながり」です。

マーク・ダニエル・マローニー会長は、「ロータリーは世界をつなぐ」ロータリーの礎は「つながり」です、と言われています。

畫田ガバナーは、「ロータリーの未来を語り、礎を築こう」を信条とされています。

この会長テーマとガバナー信条を基に、残すところ4カ月間頑張ってまいります。

新会員紹介

酒匂川 章
下関中央
2020年1月11日
生命保険業

石原 周明
下関西
2020年1月8日
精油製品販売

杉 昌司
下関西
2020年1月15日
インテリア業

深川 一呂紀
岩国西
2020年1月10日
ホテル

榮 俊英
広島
2020年1月7日
仏教

松本 明久
広島東
2020年1月8日
広告取扱

赤木 寛紀
広島北
2020年1月16日
薬局

貞木 雅和
広島北
2020年1月16日
地方銀行

宮下 佳昌
広島中央
2020年1月27日
ビルディング管理

沖宗 正明
広島東南
2020年1月20日
泌尿器科医

久行 康夫
広島東南
2020年1月20日
弁護士

林 敏
東広島21
2019年12月10日
機械及装置

松岡 秀直
呉南
2019年12月3日
建築設計

笹木 謙吾
呉南
2019年12月3日
レストラン

武田 和也
福山南
2020年1月30日
建設業

冨野井 利弘
三次中央
2020年1月20日
農業協同組合

国際ロータリー
第2710地区 事務局

〒732-0822　広島市南区松原町 1-5 ホテルグランヴィア広島 6F
TEL：082-506-0055　FAX：082-263-2323　E-mail：info@ri2710.com　URL：http://ri2710/com/

お詫びと訂正

ガバナー月信 地区大会特集号 p.29写真キャプションに間違いがありました。ここにお詫びし、訂正いたします。
誤）杉山ガバナーノミニー挨拶　　正）杉川ガバナーノミニー挨拶

2020-2021 国際ロータリー第2710地区

地区大会in防府

Rotary
District 2710

2020. 10.24(土)・25(日)

国際ロータリー第2710地区
2020-2021年度ガバナー …… 脇 正典

ホストクラブ …… 防府ロータリークラブ

1日目 10.24(土)

大会諸委員会、歓迎昼食会、会長幹事会、基調講演
RI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会
日韓交流パーティー【防府グランドホテル】

2日目 10.25(日)

本会議、記念講演会「東京大学史料編纂所教授 本郷和人氏」【防府市公会堂】
大懇親会【ソルトアリーナ】

記念講演

東京大学史料編纂所 教授
本郷(ほんごう) 和人(かずと)氏